

---

# 神になった話（仮）

茅ヶ崎千里

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神になった話（仮）

### 【Zコード】

Z2825X

### 【作者名】

茅ヶ崎千里

### 【あらすじ】

退屈しかない平凡な毎日だった。そして、これからもそれは続くと思っていた。

だけど、彼の世界は一度終わってしまった。彼が望めば、ある程度までなら復元は可能らしい。

彼に未練はなかつた。むしろ、「世界というのは随分と呆氣無く終わるんだな」と関心していた。怒られた。これからは彼の創った新しい世界が始まるのだ。

「物凄く不本意だが、とりあえず海と陸地でも創るか」

いきなり（？）死んでしまい、創造主となつた少年の話。

# 1 死？

彼は退屈していた。

今の世界に退屈していた。

彼は諦めていた。

自分が程度の意思で世界が変わるほど、この世界は甘くない。  
そう割り切つて、ただ流されるだけの毎日を送っていた。

町には機械が溢れ、周囲の雑音と相乗して傍迷惑な不協和音を奏で  
てている。

世界はそれこそが普通。

ふと、違和感を感じて立ち止まる。

そんな彼を周囲の人混みは、迷惑そうに避けて行く。

「どうしたんだ？」

友人も立ち止まり、不思議そうに尋ねてくる。

何か、変な感じがする。

自分の中に何かが居て、凄く出たがっている様なそんな感じ。  
そして、俺の肉体がそれに耐えられない様な何か。

「俺、・・・死ぬのか？」

「・・・なぜ？」

どうして自分が死ぬなんて思つたんだろう。  
まさか本当に死んでしまうというのか？

よく分からないまま？

それだけは嫌だ。屈辱だ。

そんな、彼の意思とは裏腹に苦痛の波が広がってきた。  
なんとも形容しがたい苦痛に表情が歪む。

「お、おいっ。大丈夫か？」

友人の声が頭の中で増幅されて、ガンガンと響く。  
やばいな・・・意識が朦朧もうろうと、してきた・・・。

立っているのも辛くなってきた。

彼は膝から崩れ落ちた。

彼の肉体が地面に触れ、そこで世界は消滅した。

## 1 死？（後書き）

更新はカメ並みに遅いと思われます。  
なるべく頑張ります。

ただ、真面目に小説を書いたのはこれが初なので、書き方がよく分  
かりません。

## 2 無?

そこには何も無かった。

音も無く、光も無く、何も無い。  
しいて言つなら闇だらうか。

暗く、深く、どこまでも続いていそうな闇の中、俺は目を覚ました。

・・・此処は、何処だ？

いやむしろ何、か。

ふと、視線を下に落とすと自分の手が見えた。  
肌色ではなかつた。

爪も無い。  
しわも無い。

見れる範囲の全身を見回す。

どうやら、色も無い（白だらうか？）人型をした物体のよつなものになつてしまつた様だ。

「あり～？あんまりびっくりしてないみたいだねえ」

突如、闇に声が響く。

そして、目の前に少女が現れた。

長い黒髪に大きな瞳、黒いワンピースの上に赤いポンチョ。闇の中に赤という色が増えた。

この空間がさも当然という風に振舞う少女。

この状況はもしかして、こいつが創り出したのか？

そんなありえない事が、何故か頭に過ぎる。

こんな少女には不可能だろう。

いや、人間には不可能だ。

この少女はなんだ？

「君はいつたい・・・？」

「ありあり？人にものを尋ねる時は～まず自分からつて習わなかつた？習つてる筈なんだけどなー。ま、どうでも良いんだけどね～。

うーん、君が僕に何を聞きたいのか分かんないから何とも言えないけど、とりあえず僕の名前は夢路千里だよん。君はたしかあ、国広深夜だったよねん?」

千里と名乗った少女はにやにやと顔を歪める。

「どうして俺の名前を知っている」

「僕が今まであつた世界の神だから、だよ?当たり前じゃないか」

反応に困る。

今はやり(?)中一病というやつか?

「あー!今、絶対しつれいーな事考えたでしょっ!やうでしょっ!・団星でしょ!別に僕は中一病とかじゃないんだよ!」

ふんふんといふ擬音語が似合いそうな怒り方だなあ、と思つてしまつた。

「ふーんだつ、そんな失礼なことばっか言うんなら、消滅した世界にずっと一人で入ればいいだよ。ベーっだ!」

え?

今、この少女はなんと言つた?  
消滅した?世界が?

じゃあ、此処は?

「消滅つて、どうじゅうことだ?」

俺の声は情けなく震えていたかもしれない。

千里は不思議そうに首をかしげる?

「どうじゅうとつて、此処は神を引き継ぐ場所だよ?」

「僕は君と神を交代するんだよ?」

神と名乗る少女は、実に無邪気に笑つた。

## 2 無？（後書き）

更新ホント亀並みに遅いです。  
なんか、短くなつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2825x/>

---

神になった話（仮）

2011年11月11日18時17分発行